

## 熊本大学五高記念館ほか

鈴木勇一郎

熊本大学は、旧制第五高等学校（五高）ほかいくつかの学校を前身として戦後成立した大学である。その中でも五高はその中核となる存在の学校として、その歴史を語る場合には、これまで最も重視されてきた。旧本館は、明治二十二年に山口半六が設計して建設された煉瓦造、二階建ての本格的な洋風建築であり、重要文化財にも指定されている。

熊本大学ではこの建物を「熊本大学 五高記念館」として平成五年から一般公開している。内部は展示室が六室、復元教室、資料室、事務室等から構成されている。第一展示室では、五高のあゆみが、歴代校長の肖像画や校旗、当時の公文書を交えて紹介されている。第二室は重要文化財にも指定されている五高の建築物、第三室では夏目漱石、小泉八雲、嘉納治五郎など、五高にゆかりのある著名教授、第四展示室では、池田勇人、佐藤栄作、大内兵衛をはじめとする著名な卒業生が紹介されている。第五、第六展示室では五高精神と寮生活と題して当時の旧制高校生の日常生活が扱われている。とりわけ

長髪に弊衣といった風俗やストームなど特異な生態が写真を交えて展示されているのは、興味深い。

この記念館では、こうした写真や実物資料だけでなく、当時の公文書をはじめとする文書資料も豊富に展示するなど、さまざまな角度から歴史を把握することが可能である。

この五高記念館は、印象的な赤煉瓦の建物を利用して、いることもあり、全国的にもその名を知られているが、実は熊本大学にはその他にも古い由緒を持つ歴史的建造物・施設や史料などが数多く存在している。

旧五高の敷地である黒髪北キャンパスと道を挟んだ向かい側にある黒髪南キャンパスにはかつて旧制熊本高等工業学校が置かれていた。ここには工学部研究資料館がある。明治四十一年に機械実験工場として建てられた赤煉瓦の建造物もさることながら、内部にある可動状態に復元された工作機械類は、技術史産業史上極めて貴重な遺産である。この他、熊本大学には旧薬科専門学校の資料を展示した熊薬ミュージアムなど、さまざまな歴史遺産に事欠かない。しかし、これらの資産は十分に学内外に認知されているとはいえない。

私自身、実際に熊本大学を訪れてみて、五高記念館以外にも多くの資料や文化財があるということを知った。それほど熊本大学には五高のイメージが強くまとわりつ

いているとも言えるが、最初に触れたように熊本大学の前身となったのは五高だけではない。

熊本医科大学、熊本高等工業学校など、現在の熊本大学は、こうした来歴や性格を大きく異にする諸学校を包摂して誕生した大学であり、こうした多様な資料や遺産は、大学としての深みを示すとともに、そのアイデンティティ形成を考える上では、難しい問題もはらんでいることを示すものだといえよう。このような複雑な来歴を持つ大学の歴史を叙述する場合、前身となった各校の位置づけをどのようにするかが重要な問題であることはいうまでもないことだが、実は資料館などの場合にも、こうした問題についてはまわること示しているといえよう。



工学部研究資料館の工作機械類



五高記念館